

**高野伸生委員** 自民党の高野です。本日の最後の質疑者ですので、よろしくお願い申し上げます。

冒頭から市長、御苦勞さんでございませう。ありがとうございます。

まず最初に、健康局にお聞きしたいと思います。

先ほど、本日のしょっぱなから、我が会派の山本委員から住吉市民病院の件でいろいろ質疑をしてもらいました。それを受けて、私はまた、これから一番、我々は重要に、また大きな対策を打たなければならないことがどしどし残っているんじゃないかなと、その点について質疑をさせてもらいたいと思っております。

委員長、資料の配付をお願いします。

**島田まり委員長** 高野委員より、質疑の参考に資するため資料の配付の申し出がありますので、これを許します。

**高野伸生委員** それは医師確保の問題であります。

医師確保というのは、いわゆる議会が附帯決議をつけた府立急性期・総合医療センターと民間病院と合わせて、住吉市民病院が廃院になっても医療の確保をしっかりとやってほしいという決意をしているわけなんですけど、今、この議会でいろいろ議論になってます補助金や貸付金の問題、これも大きな問題でございますけれども、しかし、仮に、病院が貸付金あるいは補助金を支出することによって運営ができるようになったとしても、お医者さんがおらんかったら、病院というのは何も機能しないんですよ。

まず、この資料を見ていただきたいと思っております。

ベッド数の推移と、それから、それにかかわるお医者さんの数を記入させていただきました。この再編前の 27 年 12 月、1 年ちょっと前でございませうけれども、このときに、市民病院、これはもう閉院に向けて始まったところだと思うんですけど、小児科は当時 8 人、産科系が 5 人いらっしゃる。そのとき、府立急性期は通常の小児科・産科の運営をやっておられて 13 人、8 人だったんですね。

ところが、29 年 3 月 6 日、実はこれ 3 日前のデータなんです。現在、住吉市民病院、これは来年のちょうど 1 年後に廃院になるわけですから、人数は 27 年から比べたら減っていつているのはわからないこともないです。

問題は、この府立急性期・総合医療センター、現在、この 1 年ちょっとの間に 13 人から 8 人に小児科医が減ってるんです。産科のほうは 1 人ふえているんですけど、小児科のお医者さんが急に減ってるという状況です。

それで、問題は、来年のこの住吉市民病院が廃院になったときに、再編後の計画のあり方というのは、当初から数字が出てたんですけども、府立急性期・総合医療センター、小児科医 21 人必要なんです。産科系 10 人が急性期医療センターで必要なんです。南港病院が、そのときには小児科医が 3 人、これは 3 人、3 人とされているのは前からこの議会でも議論されてますけれども、こんな数が必要なんです。

この前提を踏まえて、今からちょっと質疑させていただきます。

まず、局にお尋ねしますけども、この南港病院と府市共同市民病院の医師確保について、先日の民生保健委員会でも確認しましたけども、非常にこの医師確保がはかどってないと言ってもいいと思うんです。この状況が、本当に 1 年後に再編後の姿を実現できるのかどうか。

まず、南港病院の状況からお聞きしたいと思います。

**永田健康局総務部市民病院機構支援担当課長** お答えいたします。

南港病院につきましては、小児科医師につきましては、既に 1 名採用されておりまして、府立急性期・総合医療センターから 1 名派遣されると。もう一名につきましては、現在交渉中と聞いております。それに加えまして、大阪市立市民病院機構から 1 名相当分を応援医師として派遣していただける予定と聞いておるところでございます。

また、産婦人科医師につきましては、1 名既に採用されておられます。今後、履歴書を既に提出していただいている医師 1 名を採用する予定、また、現在、複数名の医師と交渉中であるというふうに聞いております。以上です。

**高野伸生委員** それでは、次に、府立急性期・総合医療センターの小児科医師、産婦人科医師、何名いて、今私はちょっとデータをもとにしゃべりましたけども、平成 30 年 4 月、それぞれこのデータどおりに確保することになるのかどうかお伺いします。まず、局に。

**永田健康局総務部市民病院機構支援担当課長** お答えいたします。

大阪府市共同住吉母子医療センターにつきましては、御指摘のとおり、小児科医師を 13 名、産婦人科医師を 1 名確保する必要があります。これにつきましては、まずは府立急性期・総合医療センターにおいて、確保につきまして御努力いただいているところでございますが、府市の病院機構にも協力を求めるほか、大阪府、大阪市、府・市の病院機構による 4 者会議なども活用しながら、確保に努めてまいりたいと思います。市としましても、関係方面に働きかけていきたいというふうに考えております。以上です。

**高野伸生委員** 産婦人科はともかく、小児科医なんですね。当初、この民間病院を位置づけたときから、心配されておった小児科医の確保なんです。これは地元の医師会も大変この小児科

医について心配されてまして、当初入札にかけるときも、小児科のお医者さんの数の基準をどこに置くか、小児管理医療ですか、そういう3とか4とかいう話が出てましたけれども、そこらが非常に厳しい状況というのはもう当初からわかっておったわけですが、これも市長に、時間がありますので、単刀直入にお伺いします。

今、やっぱり何かこういうことになってても、我々が聞かないと、状況が把握できないんですよ。たまたま委員会があるから、私、3月6日にデータをもらったんですけども、実はこれ何で聞きたかったかと言いますと、いわゆるお医者さんの間でうわさが立っている。来年の春には、この再編後計画のような人数は確保するのは難しいんじゃないかなという話も聞きました。本当かどうかはわかりませんが、もう1年前になって、やっぱりきっちりお医者さんを必ずこれだけ確保しますという、そういう宣言をしてもらわないと、我々かってこれお金の話だけじゃないと思うんですよ。お医者さんがおれへんかったら何もならないんですよ。当初から難しいと言われてたんですよ。でもそれを、難しい中を頑張っってこういうふうになってきてますとか、そういう話を聞かないと、逆に今の状態でこれ減ってますから、なぜ減ったのかよくわかりませんが、局に聞いてもわからないということでございます。

府立急性期・総合医療センターのほうは大阪府ですから、いわゆる最高責任者である、もちろん病院機構の理事長さんもそうでしょうけど、やっぱり知事が直接最高責任者として、これを指示してはるんやと思います。

どうですか、これやっぱり府と市と両方をしっかり密にして、我々に現状の正しい状況を教えてもらえるように、やっぱりこれ、しっかり市長みずから大阪府に対して働きかけていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか、市長、お願いします。

**吉村市長** 委員御指摘のとおり、今、小児科医が13人と産婦人科医1名採用すること、これが急務の状態になっていると思います。これは平成30年度の開設に向けて、この住吉母子医療センターがいわゆるハイリスク出産・分娩に対応できるような、そういったいわゆる高度な機能を備えるというためには、やはりお医者さんが非常に大切だと思っておりますので、それは委員と僕自身もそういうふうに思います。

そういった意味で、これは大阪府立の病院機構もこの医師確保に努めているというのを当然聞いておりますけども、大阪府だけじゃなくて、大阪市、大阪市民病院機構もしっかりと医師確保に向けて、当事者として尽力する必要があるというふうに思っています。

健康局に対しては、府、それから府・市の両機構の4者で、協議の場で医師確保に向けた取り組みについて、これはしっかり進めるように指示したところでもあります。この4者間の協議を事務方的に進めていくのも当然必要ですが、お医者さんを確保する必要が当然あると思いますので、僕からも知事にも話をして、この大阪府市でお医者さんの確保に最大限取り組んでいきたいと思っています。

**高野伸生委員** 私が言う前にもう市長のほうから言っていたいただきました。知事と話して、我々に状況を教えていただけるとのことですが、お願いがあります。これはやっぱり急ぐ話やと思います。来週また17日に、この民生保健委員会がございます。できましたら、それまでに知事と1回しっかりお会いになっていただいて、この医師確保をお互いに確認し合いながら、必ずこの目標の再編後の姿を実現できるという確約をとって、できたら次の委員会で、市長みずから我々にお示しいただきたいということをお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

**吉村市長** 早速ですけど、次の委員会までに僕からも知事に話はしようと思ってます。当然、まだこの件に関して知事と話をしてませんから、知事と話した上で、現在の状況がどうなっているのか、どうやって医師確保していくのかということも知事とも話をしたいと思ってます。

確約というのは将来の約束事になるので、それをどこまで示せるかというのは、はっきりと言うことはできないかもしれませんが、そこは最大限当然努力していきますし、委員が言うように、次の委員会までには知事とも話をして、その小児科の医師確保についてちょっと議論したいなと思います。

**高野伸生委員** ありがとうございます。

ぜひ我々に、現状を踏まえて、1年後の姿を心配するなど、はっきり報告いただければ本当にまた違う展開が起こるんじゃないかと思えますけれども、いろんなことが、まだまだ不透明なことが多過ぎまして、委員会を開くたびに、過去の経過とかいろいろ調べますと、何かどこで間違ったのか、誰が間違ったのか、わけのわからないような追跡ルポみたいなのがありまして、本当に真の姿が何であるかということをお我々見失ってしまいます。

ぜひ、今の市長の言葉を信じますので、知事との話をまた次回委員会でお示しいただきますのをお願い申し上げまして、この質疑を終わりたいと思います。市長、ありがとうございました。